

# LINE プロフィールアイコンの変更行動における自己呈示と対人認知

○加藤風花・川野綾華・廣瀬亮太・井川純一  
(大分大学)

## 目的

非対面型コミュニケーションツールの LINE では、ユーザーの自己呈示と対人認知の形成にアイコンが利用されると推測できる。そこで本研究では、アイコンの変更行動及び他者のアイコンの変更行動への認知に影響を与える個人特性として賞賛獲得欲求、拒否回避欲求、セルフ・モニタリングの3つに着目した。

賞賛獲得欲求・拒否回避欲求は、他者からの肯定的・否定的な評価の獲得や回避を目指す欲求である。また、セルフ・モニタリング (以下、SM) とは、自己の表出行動や自己呈示が社会的に適切なかを観察し、自己の行動を統制する傾向であるため、これらの個人特性が、自己呈示行動と関連すると予測した。

**仮説** 本研究では、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求及び SM 傾向の強さがアイコンを変更したいと思う頻度や実際の変更頻度に影響を与える (仮説 1)、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求及び SM 傾向が他者のアイコン変更行動への認知に影響を与える (仮説 2) という 2 つの仮説について検討した。

## 方法

**調査対象** 大分大学の学生 94 名 (男性 44 名、女性 49 名、その他 1 名)、平均年齢 20.0 歳。

**手続き** 大分大学の講義中に質問用紙を用いて行った。調査参加者は、個人属性、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度 (小島・大田・菅原, 2003)、改訂 SM 尺度 (Lennox & Wolfe, 1984 小口訳 1995)、調査参加者の LINE 利用状況に関する質問で構成される質問票に回答後、特性形容詞尺度 (林, 1978) の 11 項目を用いてシナリオ提示人物に対する印象について回答した。

**シナリオ** アイコン変更頻度 (3 か月で 3 回変更・3 か月で変更なしの 2 条件) を被験者間、画像の性別 (女性・男性) を被験者内に配置した計 5 種類のシナリオを、画像の種類や順番を相殺してランダムに配布した。

## 結果

**尺度の分析** 賞賛獲得欲求 ( $\alpha=.88$ )、拒否回避欲求 ( $\alpha=.88$ ) は先行研究に基づく 1 因子構造、改訂 SM 尺度はセルフ・モニタリング ( $\alpha=.87$ ) の 1 因子構造を採用し、平均値により尺度得点を算出した。特性形容詞尺度は、最尤法プロマックス回転による探索的因子分析を行い、先行研究と同様の社会的望ましさ ( $\alpha=.86$ )、個人的親しみやすさ ( $\alpha=.68$ ) の 2 因子構造を採用した。

まず、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求および SM 傾向の強さとアイコンを変更したいと思う頻度や実際の変

更頻度との関係を確認したが、どの従属変数においても有意な相関は認められなかった (仮説 1 不支持)。次に、特性形容詞尺度の得点を従属変数、アイコン変更の有無、性別、年齢および個人特性を Step1、アイコン変更の有無と賞賛獲得欲求、拒否回避欲求、SM の交互作用を Step2 で独立変数として投入した階層的重回帰分析をシナリオで設定した性別ごとに行った。

男性のアイコン画像に対する社会的望ましさを従属変数とした場合、変更の有無と賞賛獲得欲求の交互作用 ( $\beta=-.23, p<.05$ )、変更の有無と SM の交互作用 ( $\beta=.30, p<.01$ ) において有意な標準偏回帰係数が認められた。個人的親しみやすさを従属変数とした場合には、変更の有無と賞賛獲得欲求の交互作用 ( $\beta=-.23, p<.05$ )、変更の有無と SM の交互作用 ( $\beta=.33, p<.01$ ) において有意な標準偏回帰係数が認められた。女性のアイコン画像では、有意な説明率が得られなかった。

Table1 アイコン変更行動の認知に個人特性が及ぼす影響

	個人的親しみやすさ ( $\alpha=.68$ )		社会的望ましさ ( $\alpha=.86$ )	
	男性 Step2	女性 Step2	男性 Step2	女性 Step1
変更の有無 (0=なし, 1=あり)	-.15	.23 *	-.25 *	-.12
性別 (1=男, 2=女)	.17	.14	-.02	.00
年齢	.06	.16	.00	-.01
賞賛獲得欲求 ( $\alpha=.88$ )	-.03	.16	-.25 *	-.13
拒否回避欲求 ( $\alpha=.88$ )	.11	-.01	.11	.27 *
セルフ・モニタリング ( $\alpha=.87$ )	.07	-.05	.20 +	.05
変更あり*賞賛獲得欲求	-.23 *	.13	-.23 *	
変更あり*拒否回避欲求	.08	-.21 *	.13	
変更あり*セルフ・モニタリング	.33 **	.20 +	.30 **	
$R^2$	.18 +	.18 +	.20 *	.09
$\Delta R^2$	.11 *	.11 *	.11 *	.02

## 考察

アイコン変更行動を規定する個人特性として自己呈示に関連する個人特性が影響しなかった要因には、LINE というツールの性質が挙げられる。LINE の主なコミュニケーション相手である身近な他者に対して、人は戦略的な印象操作を行いにくいと考えられる。また、他者の LINE アイコンの変更行動に対する認知には、賞賛獲得欲求と SM 傾向が影響する可能性が示唆された。賞賛獲得欲求の高さ及び SM 傾向の低さは、賞賛獲得の機会を奪われる脅威や、自己の行動傾向との比較による嫌悪感を生じさせ、アイコン変更頻度の高い他者に対する印象をネガティブに見積もりやすくさせると推測できる。

## 引用文献

岩淵千明・田中国夫・中里浩明 1982 セルフ・モニタリング尺度に関する研究心理学研究, 53, 54-57.